

## ○チケット

相「はあ…。まさかあんな紙切れ1枚に人生を終わらされるとは…」

戸「急になんですか？はい？」

相「ついさっき人生が終わりました」

戸「だから何がなんだよ」

相「今までありがとうございました」(頭を下げて帰ろうとする)

戸「ちょちょ全然分かんないって。何があったのさ」

相「好きな歌手のライブチケット外れた」

戸「あ、絶対言い過ぎだね」

相「人生終わった」

戸「それくらいじゃあ終わんねえよ流石に」

相「流石に？あ、サスガニスタン？」

戸「あ、うるさいかもしれない」

相「まあ言い過ぎたんなら謝るね。ごめんなさーい(占い最下位の言い方)」

戸「めざまし占いか。そんな謝り方されても嬉しくないよ？」

相「でもやっぱ納得できない。さっきパッとスマホ開いたらメールが来てて。厳正なる抽選の結果、チケットを用意することができませんでしたって書いてあったんだよ？」

戸「うん」

相「ねえ！」

戸「分かったって。まあまあショックだとは思うけど…」

相「メールに書いてあったら嫌な言葉ランキング、厳正なる抽選の結果、チケットを用意することができませんでした部門…」

戸「1個しかねえだろその部門」

相「第2位！」

戸「2位なんだ！嘘だろ！？」

相「でもどうしよう…」

戸「まあでもこればかりはしょうがないからねえ…」

相「でもさ、チケットが用意できなかったってことは、つまり席を用意することができなかったってことでしょ？」

戸「うん。まあそうだね」

相「私全然椅子持ってくるけどな」

戸「なんですか？はい？」

相「座席足りてないなら家から持ってくればいいじゃん」

戸「そういう問題じゃないって」

相「私はライブを観たい。でも座席が足りてない。じゃあ自分で持ってくる。…解決じゃん」

戸「何も解決してないよ？」

相「え、Win-Winでしょ？」

戸「Win-Loseなのよ。貴方の1人勝ちなんだよ」

相「え！？私勝ち！？やったー！」

戸「なんじゃこいつマジで。ちょちょライブハウス側にも迷惑だろいきなり来たら」

相「え！？じゃあ私不審者ってこと！？」

戸「...そう！」

相「心外なんだけど！」

戸「今自分で言ったよね？じゃあ自覚あるってことでしょ？」

相「自覚はない。今のは、...世論」

戸「うるせえってずっと。いや世論分かってるなら自覚あるんだろ？」

相「自覚ない」

戸「もういいって。ずっとなんなんだよこれ」

相「そんなに怒らないでよ。いつでもスマイルしようねだよ」

戸「ホフディランじゃねえか」

相「え？これは森七菜ちゃんだよ」

戸「なんでカバーの方しか知らねえんだよ。原曲も聴けよ。てかそもそもライブはこの先もたくさんあるんだから次は当たるように願っておこうよ」

相「今回が解散ライブなの！」

戸「うーわ...。それは...」

相「もう二度とないライブなの！」

戸「マジかよ...」

相「もう一生見られないと思うと悲しくて...」

戸「そんなライブのチケットが外れるなんて...。なんて残酷な...。こんなことがあっていいのか...。ありえない...。悲しすぎる...。いやこんなの許せないな！よし、席持ってこう！」

相「え？え？え？え？え？反対してたよね？」

戸「事情が変わったんだよ！私も一緒に行く！」

相「それはなんで！？」

戸「君1人を悪者にはしない！いざとなったら私を囮にして逃げろ！」

相「逃げたら私観られないじゃん」

戸「君の分まで楽しむ！」

相「はあ？」

戸「そして警備員に連れていかれて、警察に捕まって、人生終わった！あははははは！ねえ？」

相「やばすぎるって...」

## ○同窓会

相「私今度中学の同窓会に行くことになったんだけど、一緒についてきてくれないかな？」

戸「なんでだよ」

相「え、だってその同窓会に知り合い1人も居ないから」

戸「そんなわけなくない？適当なこと言うなよ」

相「とにかくついてきて欲しいんだよ」

戸「嫌に決まってるだろ」

相「大丈夫だよ。安心して」

戸「何がですか」

相「サプライズでゲスト連れてくるとは言ってあるから」

戸「勘弁してくれ」

相「え？でもサプライズって嬉しいものじゃん？」

戸「押し付けがましい」

相「あ、ところで戸田さんは同窓会行ったことある？」

戸「あー、無いね。そもそも開催されてるのかも知らないもんな」

相「(戸田の肩をポンポンして)可哀想」

戸「バカにしてんのか。居るだろそれくらい」

相「でも行くのをそんなに嫌がる理由無いと思うけどなあ...」

戸「逆に無いと思った訳を教えて？」

相「嫌がってる意味が本当に分かんない。まず新しい出会いもあるだろうしさ」

戸「いやでも...」

相「その場でしか味わえない楽しさもあるだろうし」

戸「そうは言っ...」

相「そして何よりワクワク感もすごいだろうし。何が不満なの？ああもう駄目だ。これじゃあもう水掛け論だよ」

戸「一方的にぶっかけられてるだけだわ。今1人で3ターンくらいあったぞ？」

相「そんなに水掛けられたら風邪引いちゃうね」

戸「うるせえよ」

相「あ、分かった！知らない人と会うから照れてるんだ！」

戸「そういうことじゃねえんだよ」

相「かつまた〜」

戸「またまた〜だろ。急に短パン元気おじさん出てくるな」

相「うわっ、そんなこと言って。もう勝俣さんに言いつけるから」

戸「あんた接点ねえだろうが」

相「Aの点から、北の方に向かって線が伸びています。Bの点から、東の方に向かって線が伸びています」

戸「...、ん？」

相「接点ねえだろうが」

戸「何してんのこれ」

相「とにかく同窓会来てよ」

戸「行かないって」

相「なんでそんなに頑なに拒否してるのか意味が分かんないんだけど」

戸「逆に自分の同窓会すら行ったことない奴がどうして他人の同窓会行かなきゃならないのか教えて？」

相「はい、分かりました。そんなに言うなら戸田さんの理想の同窓会、教えてください」

戸「え、今会話成立してました？」

相「Can you take a picture？」

戸「なんで急に写真撮って欲しいんだよ」

相「理想の同窓会教えて欲しいから」

戸「答えになってない」

相「あらそうですか」

戸「分かったよ。理想の同窓会シチュエーション言えればいいんだろ？」

相「いや、別にそんな教えて欲しい訳じゃない」

戸「なんじゃこいつ」

相「そんなに言いたいなら聞いてあげてもいいけど」

戸「は？」

相「そんなに言いたいなら聞いてあげてもいいけどって」

戸「聞きたいなら聞きたいって最初から言えば？」

相「聞きたいなら聞きたいって最初から言えばって言うなー！！」

戸「え、どこに逆鱗に触れる要素あった！？」

相「こんにちは！逆鱗に触れられた樹木希林、げききりんです！」

戸「1回全部説明してくれ頼むから」

相「説明？」

戸「頭ぶっ壊れそうなんだよ」

相「頭ぶっ壊れそうならぶっ壊してあげようか？」

戸「急にどうした」

相「ちなみに私はクラスメイト誰1人欠けることなく同窓会やりたいタイプ」

戸「聞いてねえよそんなの」

相「やっぱり同窓会はみんなでやりたいよね」

戸「私は逆に、当時の仲良し5、6人くらいで集まって飲むのが1番好きかも」

相「じゃあ集まるメンバー5人にしてもらおう？」

戸「それは本当に意味が分からない」

相「そんなことないけどなあ」

戸「仲良しで飲みたいって言ってんの！話聞ってる？」

相「戸田さんが入ることによって、本当は来るはずだった30人くらいが、自宅待機になるね」

戸「無理無理無理無理！しんどいって」

相「そうなると残すメンバー誰にしようかな」

戸「選ばなくていいのよ」

相「いくつかあった仲良しグループから1人ずつ選抜しようかな」

戸「地獄じゃねえか」

相「え、なんで？」

戸「そりゃそうだろ。クラスなんて全員が全員仲良い訳じゃないんだから」

相「そうなの？」

戸「あんまり相性良くない人だっているだろ」

相「大丈夫。そういう人達は強制的に喋らせるから」

戸「余計なことすんなよ」

相「え？」

戸「クラスの馴染まない者同士を無理やり話させようとしたって意味ないんだよ。そんなことしたって、(お互い少し向き合っただけで中腰になる)かんぱーい！」

相「(ユニゾンして)どうも。(1秒沈黙してユニゾン)へへっ」

戸「ってなるだけだから。気まずいんだよ」

相「じゃあ別にメンバーは減らさなくて良かってこと？」

戸「当たり前だろ。私が行かなきゃ良いだけの話だから」

相「頑固だねえ」

戸「これは譲れないわ」

相「はいさーい！ケンジです！」

戸「急にどうした」

相「今は南の島で妻と楽しく生きてるぜ！」

戸「誰だお前」

相「今回急だったから沖縄に住んでるケンジは来られないらしいんだよ」

戸「誰なんだよだから」

相「だから私がケンジになりきって楽しむって決めたの」

戸「どういう意味なのそれは」

相「あ、そうだ分かった！良いこと思いついた！」

戸「良いこと？」

相「ケンジが来れない代わりに戸田さんがケンジとして出席すれば良いのでは？」

戸「おいバカ探偵。全く名案じゃないぞ？」

相「え？ケンジが今度来られないんだよ？」

戸「うん」

相「その欠けた人員のところに戸田さんがケンジとして入ることだよ？」

戸「欠けた人員って言うな。わざわざ説明しなくても理解はできてるんだよ」

相「じゃあ何が不満なの？ケンジとして行けば戸田さんも恥ずかしくないじゃん」

戸「今自分が何言ってるか理解しながら喋ってる？」

相「え？」

戸「全然意味わかんねえんだよ」

相「もういい加減にして！」

戸「こっちのセリフだよ！」

相「なんなのさっきからずっと！」

戸「なんでそんな怒ってんの！？」

相「戸田さんが逆鱗に触れるから」

戸「だからいつ触れたんだよ」

相「逆鱗に触れられた樹木希林、げききりんです！」(2人でユニゾン)

戸「げききりんだろ！？もう良いってそいつ。帰らせるって」

相「お願いだよ。同級生に可愛い子居るからさ」

戸「じゃあ知り合い居るじゃねえか」